

おるご〜る

No.
174

男女共同参画

わこうプラン推進委員だより

個人権文化課 ☎424-9088

梅ちゃん先生

わこうプラン推進委員

大河内 茂美

毎朝、連続ドラマ「梅ちゃん先生」を見ている。ドラマは、下町の診療所の女医「梅ちゃん」の成長物語。時代は戦時下から始まり、高度成長期へ。梅ちゃんの父親は医学部の教授で、家制度時代の「家長」の生き残りのような典型的な頑固オヤジ、戦後といえども“男女平等”意識のカケラもない。筆者は、ハラハラしながらも、梅ちゃん先生の成長を応援している。

女医と言えば、埼玉県には“さいたま輝き荻野吟子賞”がある。荻野吟子は我が埼玉の出身で、明治18年、日本初の公認女性医師となった。信じられないと思うが、当時、女性には開業の許可が与えられていなかった。今はと言うと、全国の医療施設で働く女医の数は4万9千

人。男性が22万3千人なので、男性の2割余りにすぎない。(そもそも「女医」という言葉自体が、その特殊性を表している)。そして、埼玉県は医療施設に従事する医師の数が全国で最も少なく、人口10万人に対して140人。全国では213人、最多の京都府は279人と、2倍に近い数字だ。そのうち女医は、埼玉県は25人、全国では39人、京都府は56人である。

性差医療・女性外来等の男女共同参画の視点を入れた医療環境が求められている中で、女性医師の増加を促す環境づくりが必要かと思う。併せて、質・量ともに地域間格差のない医療環境づくりをしてほしいものだ。